中小企業景況調査報告書

2026年　　7月～9月期　実績

（　2026年　　10月～12月期 予測）

調査実施時点　　：　　２０２６年９月１日

京都府商工会連合会

≪ 目　次 ≫

１．中小企業景況調査の概要　……　２頁

２．京都府内商工会地域産業の景況【総括】……　３ ～ ４ 頁

３．各　業　種　の　景　況

(1) 製 造 業 の 景 況 …… ５ ～ ６ 頁

(2) 建 設 業 の 景 況 …… ７ ～ ８ 頁

(3) 小 売 業 の 景 況 …… ９ ～ １０頁

(4) サービス業の景況 ……１１ ～ １２頁

D・I とは　（景気動向指数）

この報告書の中で用いている「**D・I 指数**」とは、ディフュージョン・インデックスの略で、企業経営者の景気の波及度合いを表す指標として、利用されています。

≪算出方法≫

前年同期に比べて、

『増加』回答企業の割合（上昇･好転 等）　－　**『減少』回答企業の割合**（低下･悪化 等）　＝　D・I

D・I が、**プ ラ ス**（＋）値 …… 強気（楽観）を表す。

D・I が、**マイナス**（－）値 …… 弱気（悲観）を表す。

例えば、売上が前年同期比で、

『増加』回答企業 50%、『不変』回答企業 30%、『減少』回答企業 20% の場合、

D・I 指数は、　５０％ － ２０％ ＝ ３０％

となり、経営者の売上に対する業況観が、強気気運であることを表しています。

1. 中小企業景況調査の概要

この調査は、商工会地域の産業の状況、地域の経済動向等について、四半期毎に変化の実態等諸状況を迅速かつ的確に収集把握して、経営改善普及事業の効果的な指導資料にするために、全国商工会連合会が実施する調査に連携し、府内の状況を取りまとめたものです。

調査要領、本年度の調査対象商工会及び、調査回答企業数・対象業種別構成の内訳は次のとおりです。

(1) 調査対象期間

2026年7月～9月期を対象とした。

調査実施時点 ‥‥‥‥ 9月1日(火)

調 査 期 間 ‥‥‥‥ 8月19日(水) ～ 9月3日(木)

(2) 調査の方法

(イ) 商工会の経営支援員の訪問による面接調査とした。

(ロ) 調査対象商工会の選定は、管内ごとの市町村人口を勘案し、又、調査対象企業の抽出は、各業種・規模等の有意抽出法とした。

(3) 調査対象商工会

福知山市商工会、向日市商工会、長岡京市商工会、八幡市商工会
京田辺市商工会、京丹後市商工会、南丹市商工会、木津川市商工会
大山崎町商工会、久御山町商工会、井手町商工会、宇治田原町商工会
笠置町商工会、和束町商工会、精華町商工会、南山城村商工会
京北商工会、京丹波町商工会、伊根町商工会、与謝野町商工会

(計20商工会)

(4) 対象業種別構成 及び 回答企業数

業　種	調査対象企業数	構　成　比		回答企業数	回　答　率
製　造　業	36	20.0%		36	100.0%
建　設　業	24	13.3%		24	100.0%
小　売　業	53	29.5%		52	98.1%
サービス業	67	37.2%		67	100.0%
【合　計】	180	100%		179	99.4%

２．京都府内商工会地域産業の景況【総括】

＜概要＞

京都府内商工会地域の「売上指数」は全体DIが▲2.0となり、前期比で3.3ポイント改善したものの、業種間で明暗が分かれる結果となった。製造業は受注や販売数量に持ち直しの動きがみられ、売上DIがプラスに転じ、サービス業もプラスを維持した。一方、建設業はマイナスに転じ、小売業も低調な状況が続いている。小売業では消費者ニーズの変化や地域外への購買流出が経営上の課題となっている。採算面では全業種で改善がみられたものの、依然としてマイナス水準が続き、特に小売業の厳しさが目立つ。また、原材料価格や仕入価格の上昇が各業種で課題となっており、製造業・建設業では人件費の増加も挙げられている。売上に一部回復の動きがみられる一方、収益面ではなお厳しい状況が続いている。

＜業種別売上指数＞

①全　体：売上DIは▲2.0となり、前期の売上DI▲5.3と比べ+3.3ポイントの改善となった。
②製造業：売上DIは11.1となり、前期の売上DI▲19.5と比べ+30.6ポイントの改善となった。
③建設業：売上DIは▲12.5となり、前期の売上DI8.3と比べ▲20.8ポイントの悪化となった。
④小売業：売上DIは▲15.3となり、前期の売上DI▲17.3と比べ+2.0ポイントの改善となった。
⑤サービス業：売上DIは8.9となり、前期の売上DI7.5と比べ+1.4ポイントの改善となった。

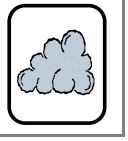
＜業種別採算指数＞

①全　体：採算DIは▲10.5となり、前期の採算DI▲24.8と比べ+14.3ポイントの改善となった。
②製造業：採算DIは▲2.8となり、前期の採算DI▲22.3と比べ+19.5ポイントの改善となった。
③建設業：採算DIは▲8.3となり、前期の採算DI▲29.2と比べ+20.9ポイントの改善となった。
④小売業：採算DIは▲23.1となり、前期の採算DI▲31.3と比べ+8.2ポイントの改善となった。
⑤サービス業：採算DIは▲7.6となり、前期の採算DI▲16.5と比べ+8.9ポイントの改善となった。

＜業種別経営上の問題点＞

①製造業：「１位：需要の停滞」「２位：原材料価格の上昇」「３位：従業員の確保難」
②建設業：「１位：材料価格の上昇」「２位：従業員の確保難」「３位：熟練技術者の確保難」
「３位：材料の入手難」「３位：下請単価の上昇」「３位：官公需要の停滞」
「３位：請負単価の低下、上昇難」
③小売業：「１位：仕入単価の上昇」「２位：購買力の他地域への流出」
「３位：消費者ニーズの変化」
④サービス業：「１位：材料等仕入単価の上昇」「２位：人件費の増加」
「３位：利用者ニーズの変化」「３位：従業員の確保難」

業種別景況指標　（景気の天気図）　※天気図は売上DI

	R7年			R8年			
	4月～6月	7月～9月	10月～12月	1月～3月	4月～6月	7月～9月	10月～12月（見通）
製造業							
建設業							
小売業							
サービス業							

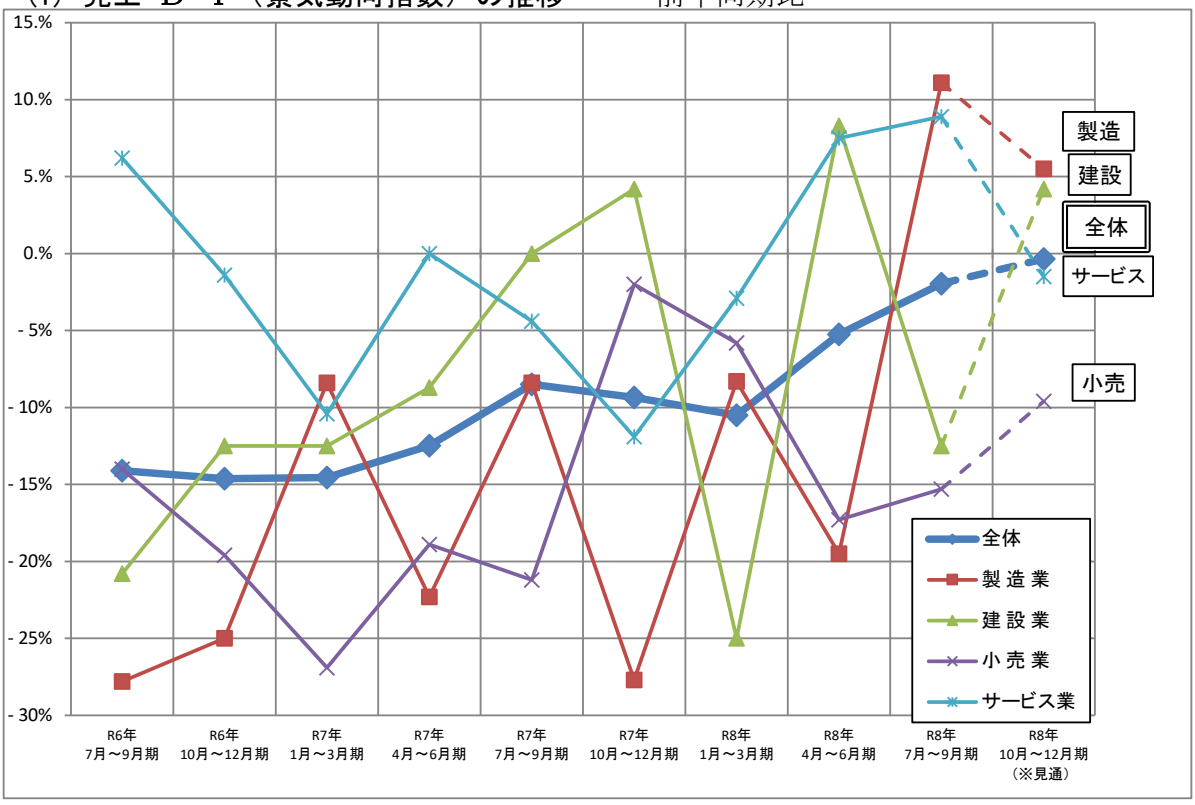
天気図のよみ方

D・I	100.0 ～50.1	50.0 ～25.1	25.0 ～0.1	0.0 ～▲25.0	▲25.1 ～▲50.0	▲50.1 ～▲100.0
指 標						
内 容	特に好転	好　転	やや好転	やや悪化	悪　化	特に悪化

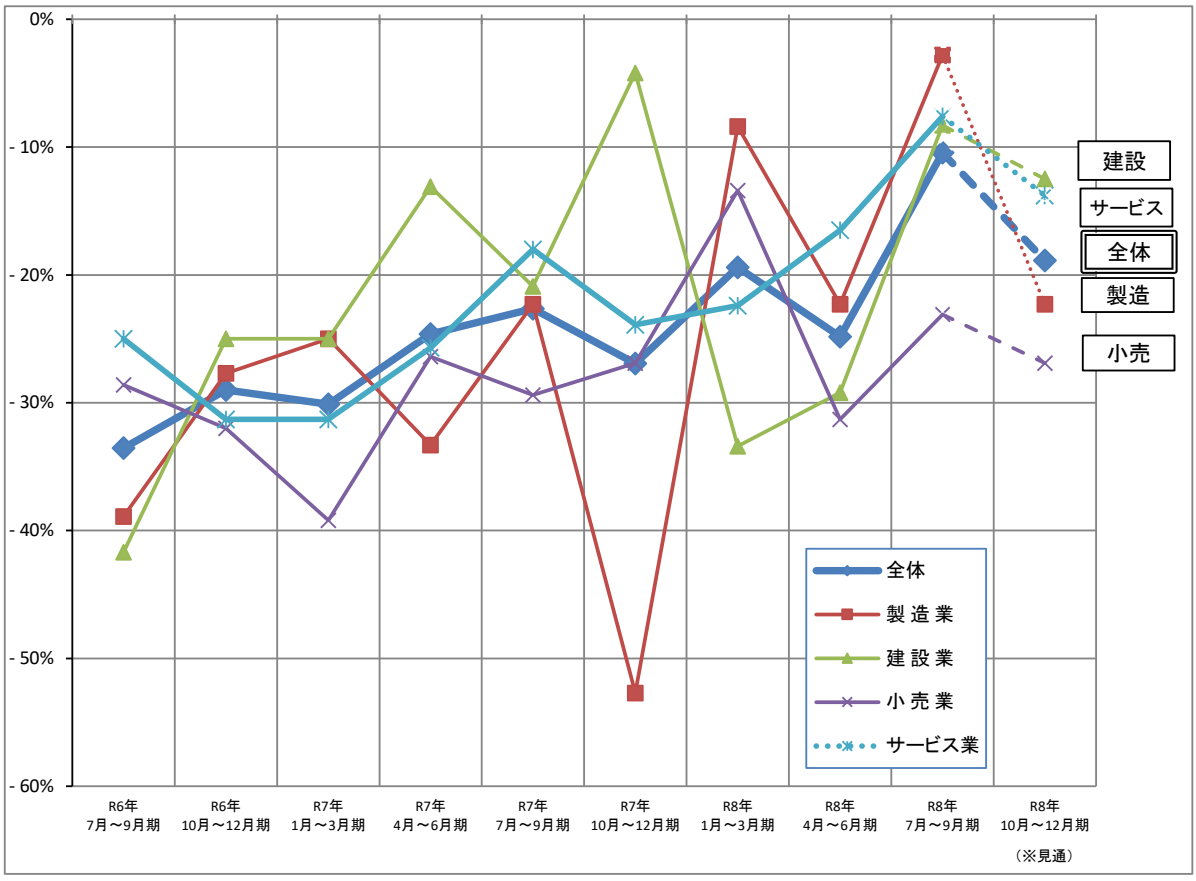
２．　京都府内商工会地域産業の景況【総括】

≪売上と採算の推移≫

(1) 売上　D・I（景気動向指数）の推移　　－前年同期比－



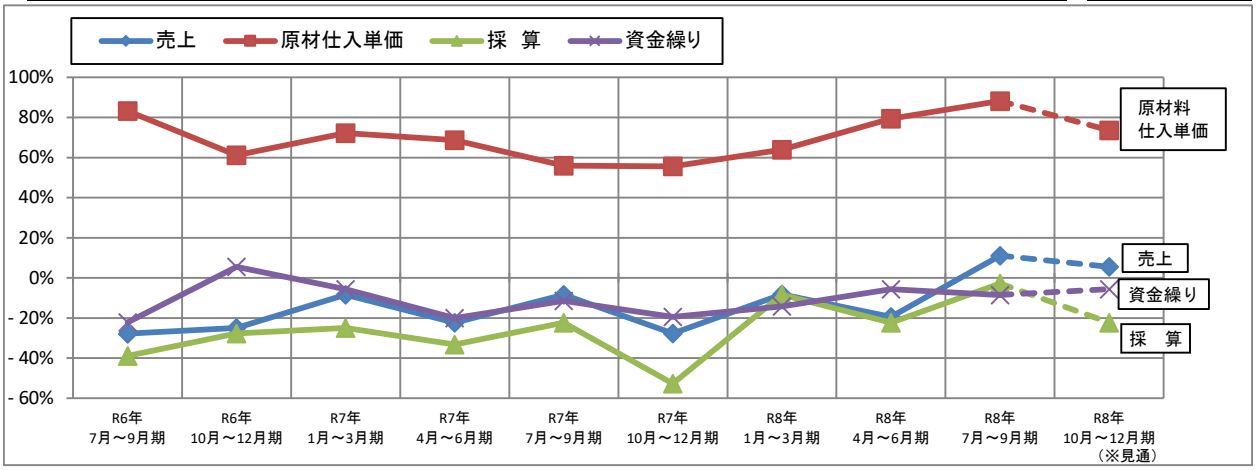
(2) 採算　D・I（景気動向指数）の推移　　－前年同期比－



3．各　業　種　の　景　況　　(1)　製　造　業

① 製造業　D･I 値（景気動向指数）の推移　　－前年同期比－

製　造　業	R7年 7月～9月期	R7年 10月～12月期	R8年 1月～3月期	R8年 4月～6月期	R8年 7月～9月期	来期予測 R8年 10月～12月期
売　　上	▲ 8.4%	▲ 27.7%	▲ 8.3%	▲ 19.5%	11.1%	5.5%
原材仕入単価	55.9%	55.6%	63.9%	79.4%	88.2%	73.6%
採　　算	▲ 22.3%	▲ 52.7%	▲ 8.4%	▲ 22.3%	▲ 2.8%	▲ 22.3%
資　金　繰　り	▲ 11.4%	▲ 19.4%	▲ 14.3%	▲ 5.6%	▲ 8.5%	▲ 5.6%



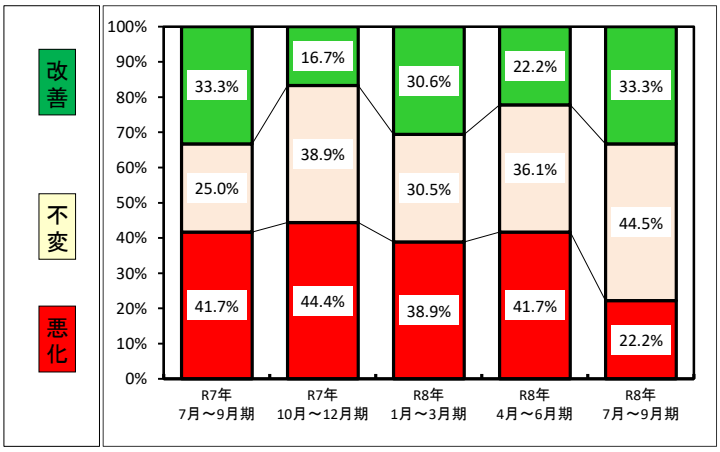
売　上　・・・・　11.1　ポイント
（前期比 30.6 ポイント改善）

仕入単価 ・・・・　88.2　ポイント
（前期比 8.8 ポイント悪化）

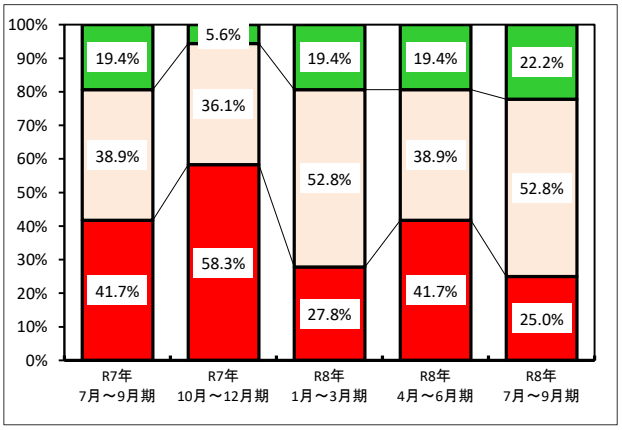
採　　算 ・・・・ ▲ 2.8 ポイント
（前期比 19.5 ポイント改善）

資金繰り ・・・・ ▲ 8.5 ポイント
（前期比 2.9 ポイント悪化）

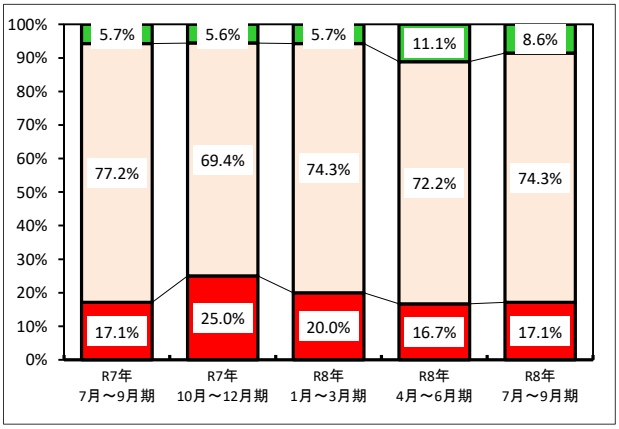
※『**売上（加工）**』の状況　前年同期比（D･I 値）



※『**採 算**』の状況　前年同期比（D･I 値）



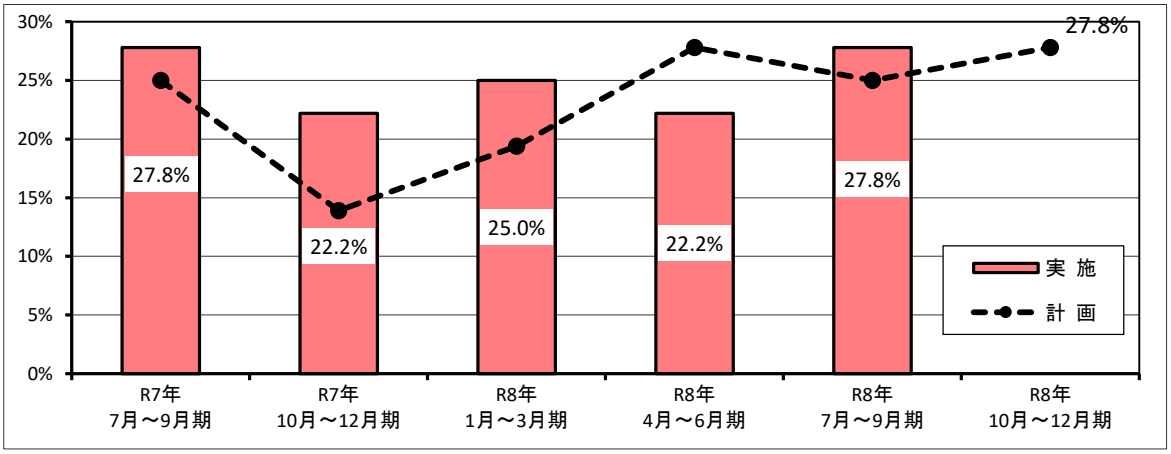
※『**資金繰り**』の状況　前年同期比（D･I 値）



② 設備投資の状況（当期中に行った設備投資の実施状況と来期の実施予定を集計）

設備投資の実施状況は27.8%（前期比5.6ポイントの増加）であった。

製　造　業	R7年 7月～9月期	R7年 10月～12月期	R8年 1月～3月期	R8年 4月～6月期	R8年 7月～9月期	(計画) R8年 10月～12月期
土　　地	10.0%	0.0%	0.0%	12.5%	10.0%	0.0%
車両・運搬具	50.0%	37.5%	33.3%	25.0%	20.0%	0.0%
生　産　設　備	30.0%	50.0%	44.4%	25.0%	60.0%	80.0%
設備投資の実施	27.8%	22.2%	25.0%	22.2%	27.8%	27.8%

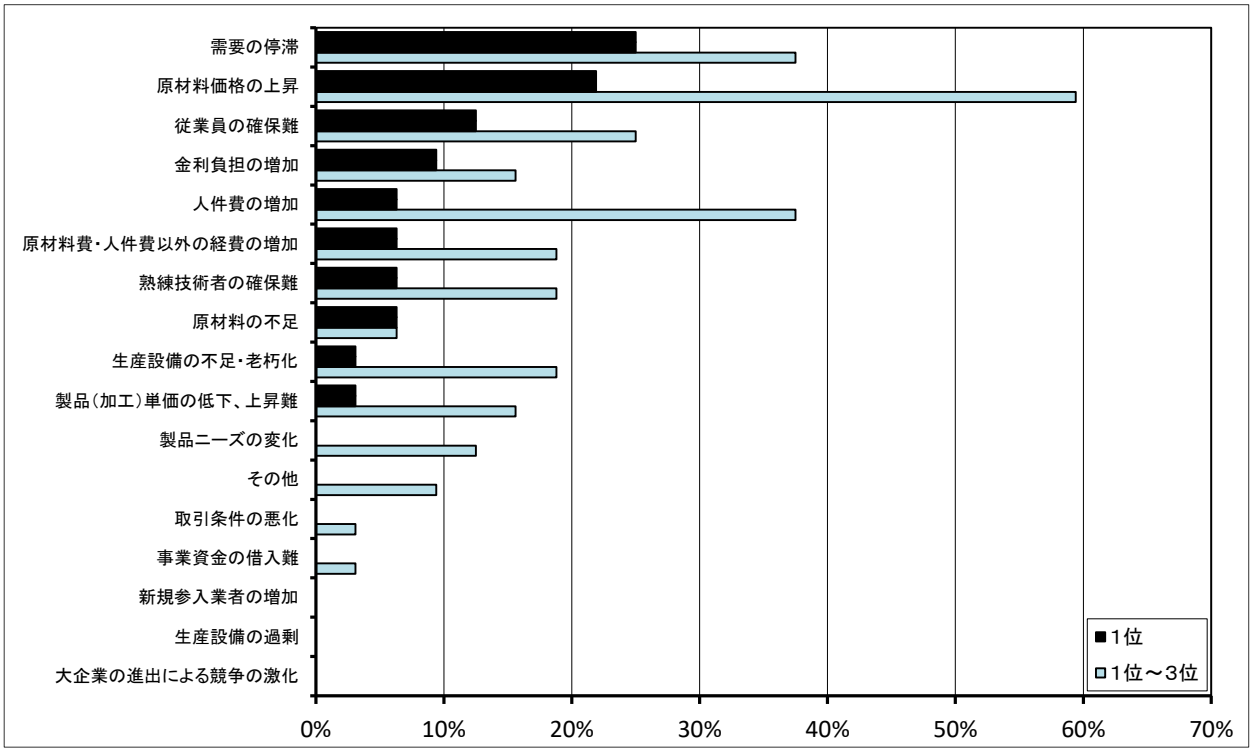


※ 計画については、調査実施時期を基準に翌期の予定を記入しているため、グラフに期の差が生じる。

③ 経営上の問題点

※グラフ中の項目から1位～3位まで挙げられた問題点を1位及び1位～3位毎に集計を行った。

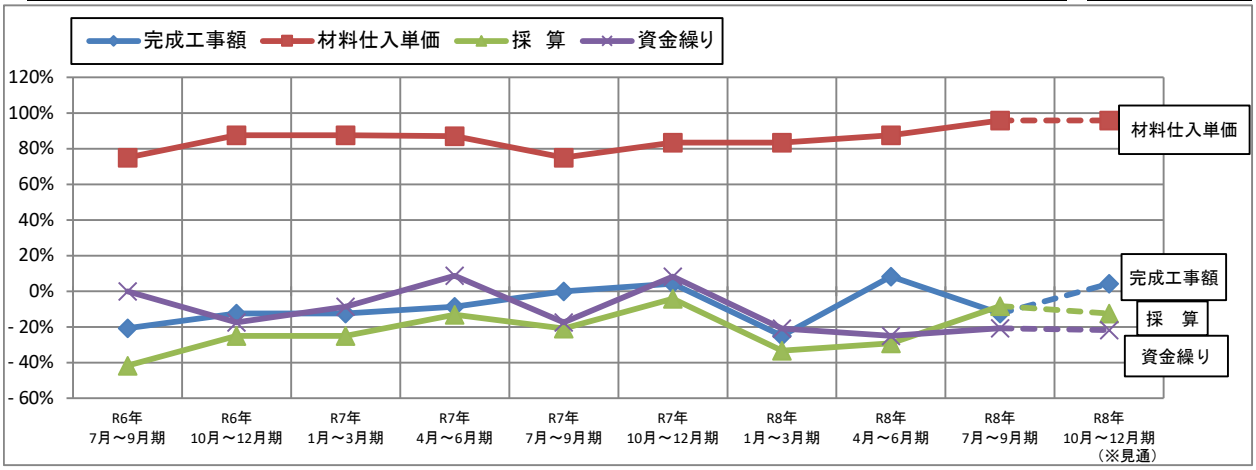
「需要の停滞」「原材料価格の上昇」「従業員の確保難」等が上位となった。



3．各　業　種　の　景　況　　(2)　建　設　業

① 建設業　D･I 値（景気動向指数）の推移　　－前年同期比－

建　設　業	R7年 7月～9月期	R7年 10月～12月期	R8年 1月～3月期	R8年 4月～6月期	R8年 7月～9月期	来期予測 R8年 10月～12月期
完成工事額	0.0%	4.2%	▲ 25.0%	8.3%	▲ 12.5%	4.2%
材料仕入単価	75.0%	83.3%	83.3%	87.5%	95.8%	95.8%
採　　算	▲ 20.9%	▲ 4.2%	▲ 33.4%	▲ 29.2%	▲ 8.3%	▲ 12.5%
資　金　繰　り	▲ 17.4%	8.3%	▲ 20.9%	▲ 25.0%	▲ 20.8%	▲ 21.8%



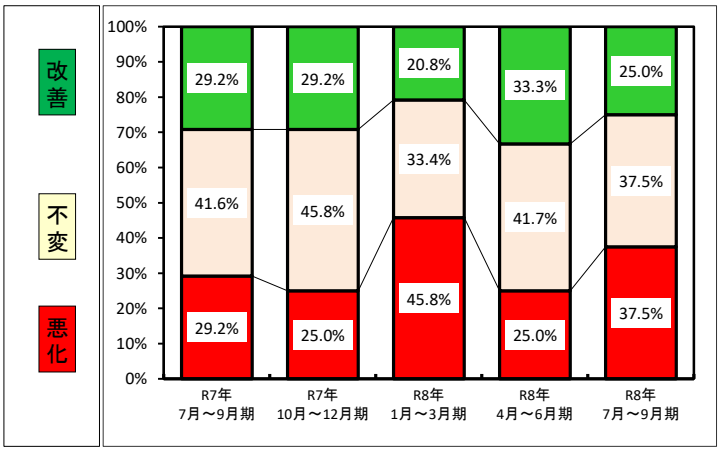
完成工事額･･･ ▲ 12.5 ポイント
（前期比 20.8 ポイント悪化）

仕入単価 ････ 95.8 ポイント
（前期比 8.3 ポイント悪化）

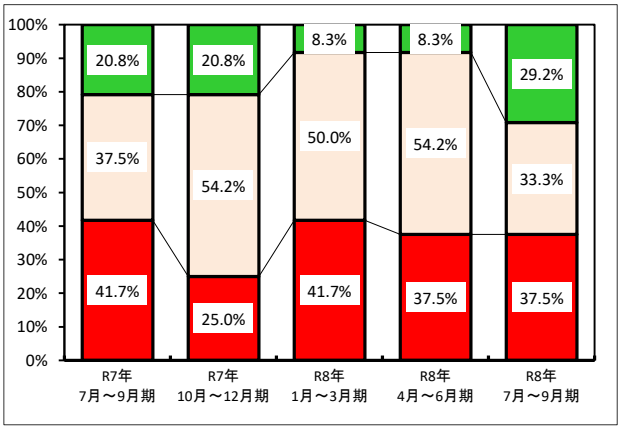
採　　算 ････ ▲ 8.3 ポイント
（前期比 20.9 ポイント改善）

資金繰り ････ ▲ 20.8 ポイント
（前期比 4.2 ポイント改善）

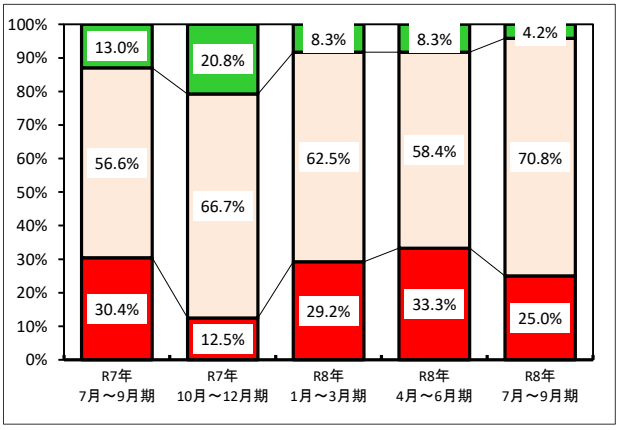
※『**完成工事額**』の状況　前年同期比（D･I 値）



※『**採 算**』の状況　前年同期比（D･I 値）



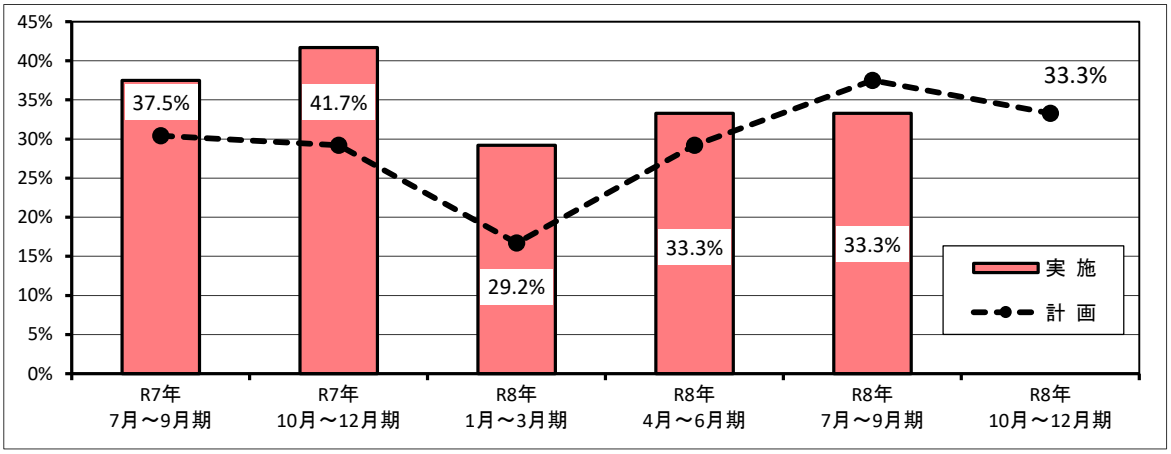
※『**資金繰り**』の状況　前年同期比（D･I 値）



② 設備投資の状況（当期中に行った設備投資の実施状況と来期の実施予定を集計）

設備投資の実施状況は変化無しであった。

建　設　業	R7年 7月～9月期	R7年 10月～12月期	R8年 1月～3月期	R8年 4月～6月期	R8年 7月～9月期	(計画) R8年 10月～12月期
土　　地	11.1%	30.0%	0.0%	12.5%	25.0%	0.0%
車両・運搬具	55.6%	60.0%	57.1%	37.5%	37.5%	50.0%
建　設　機　械	33.3%	50.0%	28.6%	25.0%	25.0%	50.0%
設備投資の実施	37.5%	41.7%	29.2%	33.3%	33.3%	33.3%

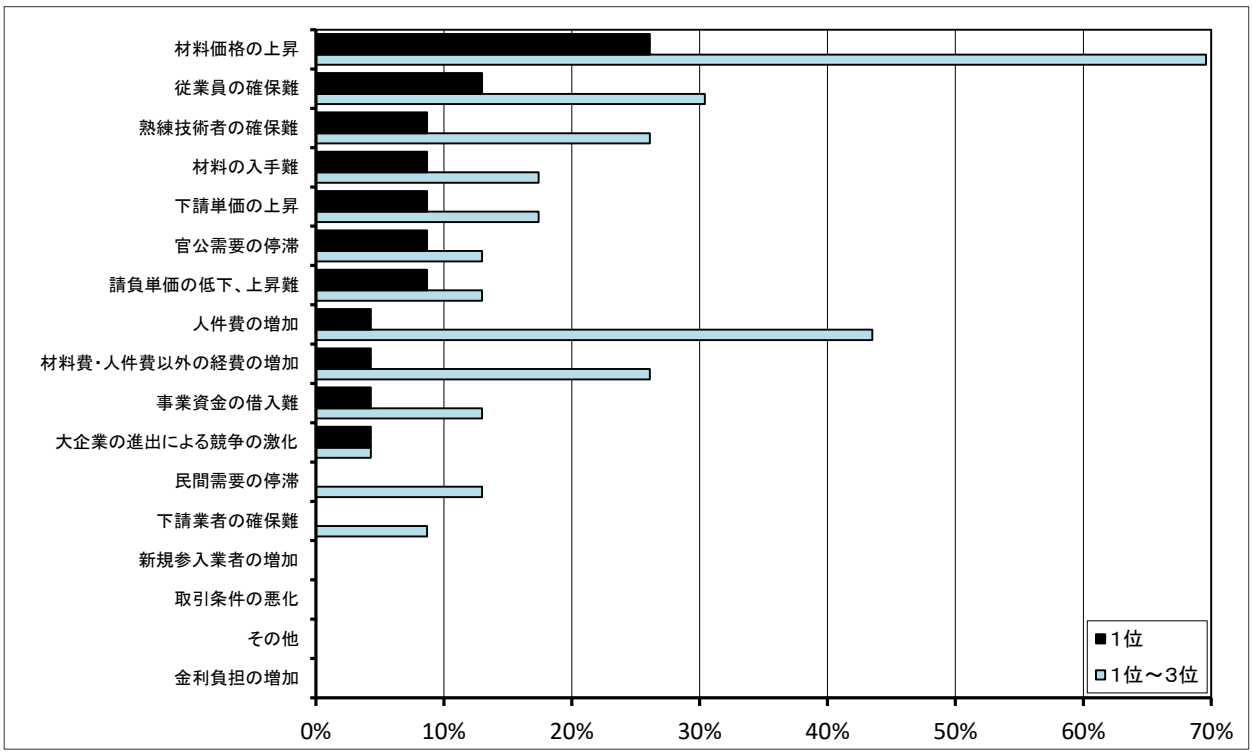


※ 計画については、調査実施時期を基準に翌期の予定を記入しているため、グラフに期の差が生じる。

③ 経営上の問題点

※グラフ中の項目から1位～3位まで挙げられた問題点を1位及び1位～3位毎に集計を行った。

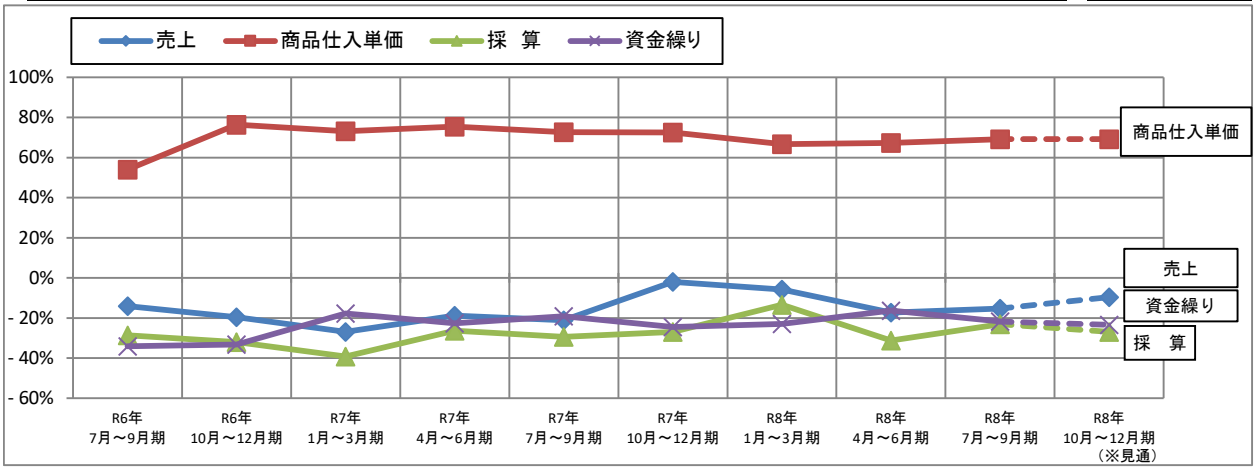
「材料価格の上昇」「従業員の確保難」「熟練技術者の確保難」「材料の入手難」
「下請単価の上昇」「官公需要の停滞」「請負単価の低下、上昇難」等が上位となった。



3．各　業　種　の　景　況　　(3)　小　売　業

① 小売業　D･I 値（景気動向指数）の推移　　－前年同期比－

小　売　業	R7年 7月～9月期	R7年 10月～12月期	R8年 1月～3月期	R8年 4月～6月期	R8年 7月～9月期	来期予測 R8年 10月～12月期
売　　上	▲ 21.2%	▲ 2.0%	▲ 5.8%	▲ 17.3%	▲ 15.3%	▲ 9.6%
商品仕入単価	72.6%	72.5%	66.7%	67.3%	69.2%	69.2%
採　　算	▲ 29.4%	▲ 26.9%	▲ 13.4%	▲ 31.3%	▲ 23.1%	▲ 26.9%
資　金　繰　り	▲ 19.2%	▲ 24.5%	▲ 22.9%	▲ 16.3%	▲ 21.8%	▲ 23.4%



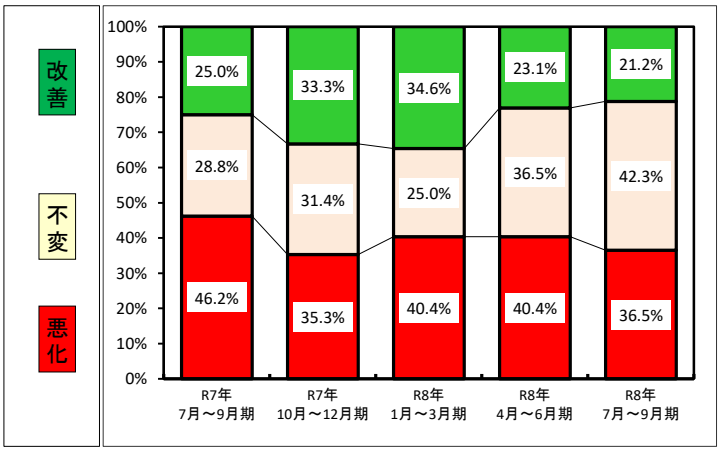
売　上　・・・・　▲ 15.3 ポイント
（前期比　2.0　ポイント改善）

仕入単価 ・・・・　69.2　ポイント
（前期比　1.9　ポイント悪化）

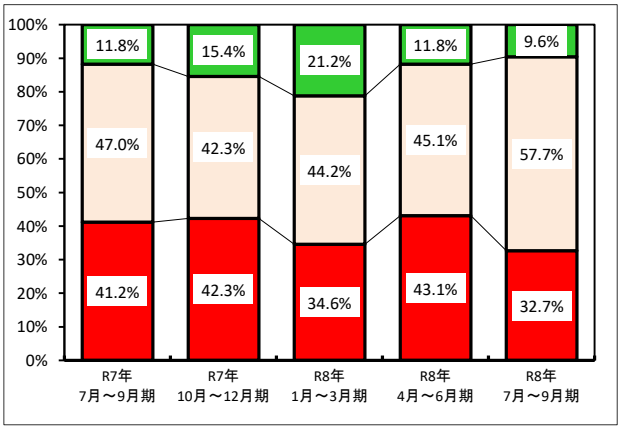
採　　算 ・・・・▲ 23.1 ポイント
（前期比　8.2　ポイント改善）

資金繰り ・・・・ ▲ 21.8 ポイント
（前期比　5.5　ポイント悪化）

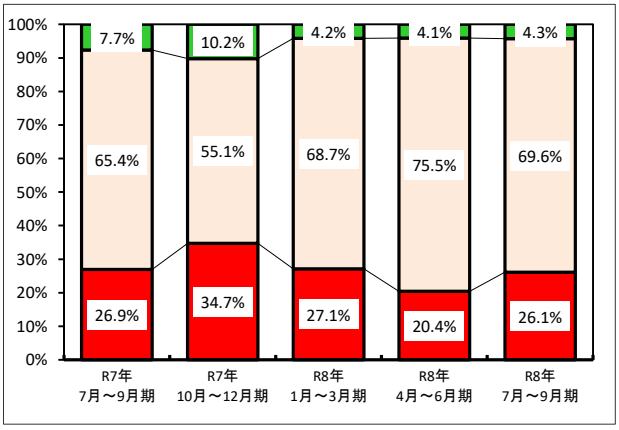
※『売上』の状況　前年同期比（D･I 値）



※『採 算』の状況　前年同期比（D･I 値）



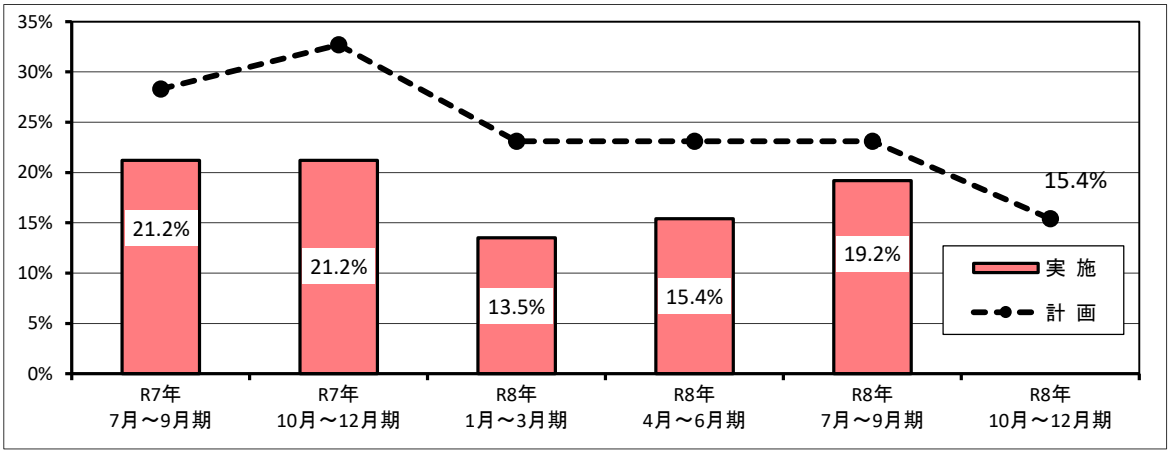
※『資金繰り』の状況　前年同期比（D･I 値）



② 設備投資の状況（当期中に行った設備投資の実施状況と来期の実施予定を集計）

設備投資の実施状況は19.2%（前期比3.8ポイントの増加）であった。

小　売　業	R7年 7月～9月期	R7年 10月～12月期	R8年 1月～3月期	R8年 4月～6月期	R8年 7月～9月期	(計画) R8年 10月～12月期
土　　地	0.0%	0.0%	14.3%	12.5%	10.0%	0.0%
車両・運搬具	18.2%	9.1%	57.1%	12.5%	10.0%	25.0%
販　売　設　備	45.5%	36.4%	57.1%	50.0%	40.0%	25.0%
設備投資の実施	21.2%	21.2%	13.5%	15.4%	19.2%	15.4%

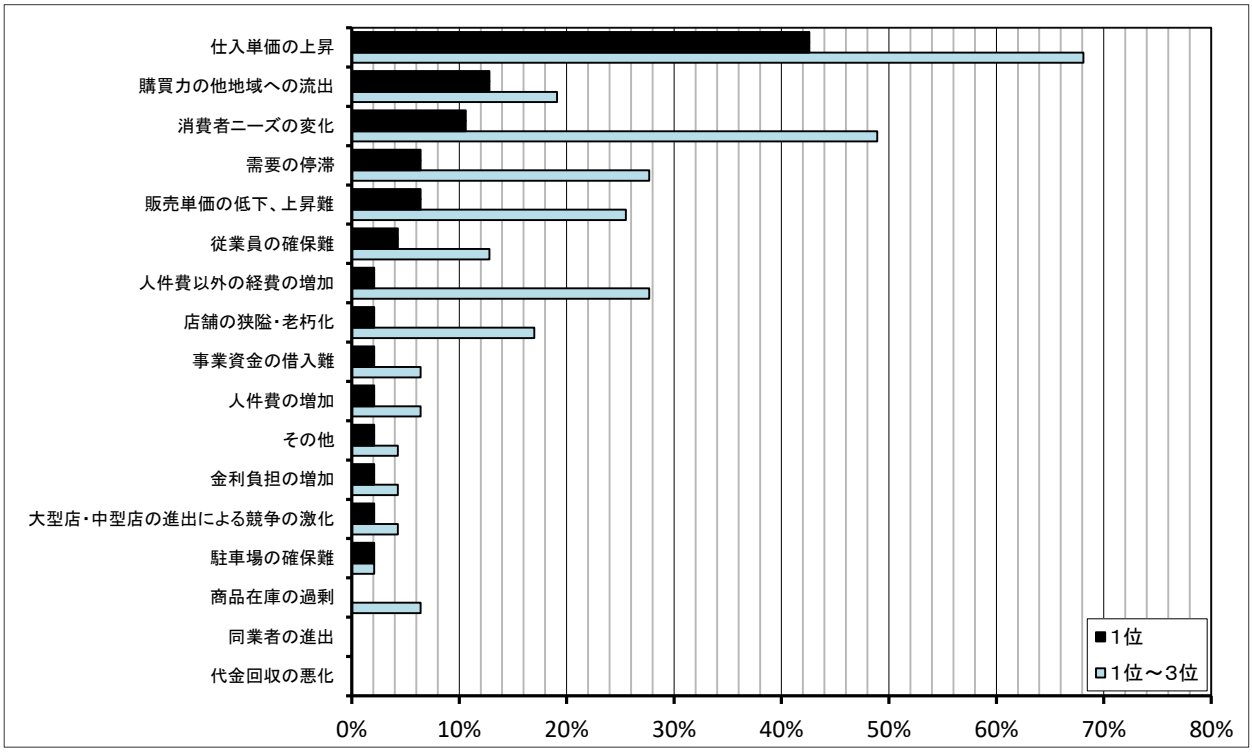


※ 計画については、調査実施時期を基準に翌期の予定を記入しているため、グラフに期の差が生じる。

③ 経営上の問題点

※グラフ中の項目から1位～3位まで挙げられた問題点を1位及び1位～3位毎に集計を行った。

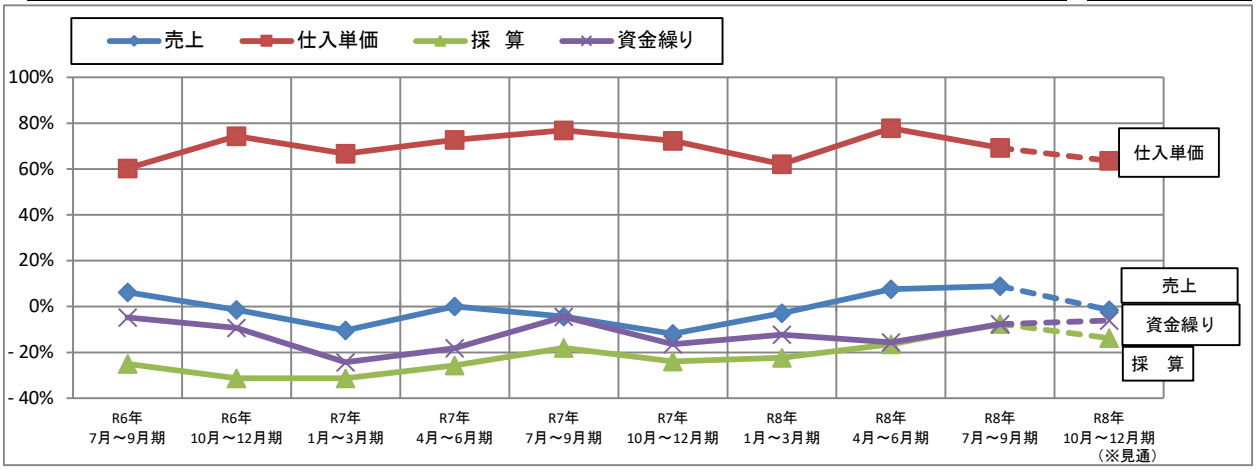
「仕入単価の上昇」「購買力の他地域への流出」「消費者ニーズの変化」が上位となった。



3．各　業　種　の　景　況　（４）サービス業

① サービス業　D･I 値（景気動向指数）の推移　　－前年同期比－

サービス業	R7年 7月～9月期	R7年 10月～12月期	R8年 1月～3月期	R8年 4月～6月期	R8年 7月～9月期	来期予測 R8年 10月～12月期
売　　上	▲ 4.4%	▲ 11.9%	▲ 2.9%	7.5%	8.9%	▲ 1.5%
仕 入 単 価	76.9%	72.3%	62.1%	77.8%	69.2%	63.6%
採　　算	▲ 18.0%	▲ 23.9%	▲ 22.4%	▲ 16.5%	▲ 7.6%	▲ 13.8%
資 金 繰 り	▲ 4.5%	▲ 16.4%	▲ 12.3%	▲ 15.6%	▲ 7.7%	▲ 6.1%



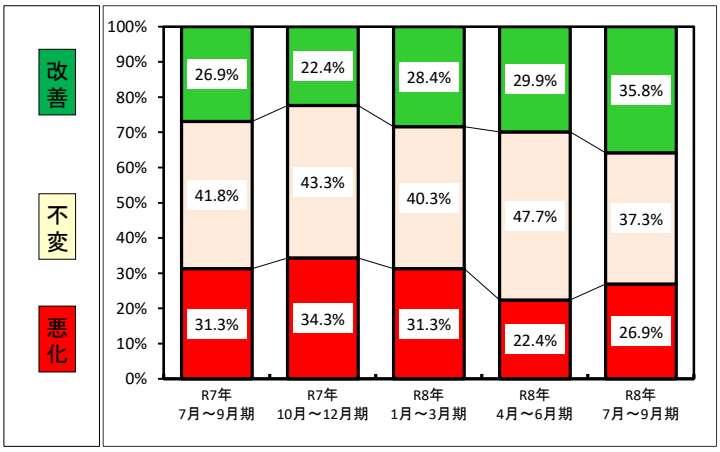
売　上　・・・・　8.9　ポイント
（前期比　1.4　ポイント改善）

仕入単価　・・・・　69.2　ポイント
（前期比　8.6　ポイント改善）

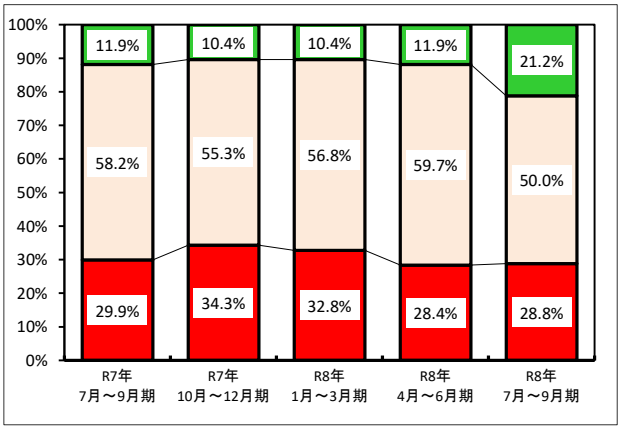
採　　算　・・・・　▲ 7.6　ポイント
（前期比　8.9　ポイント改善）

資金繰り　・・・・　▲ 7.7　ポイント
（前期比　7.9　ポイント改善）

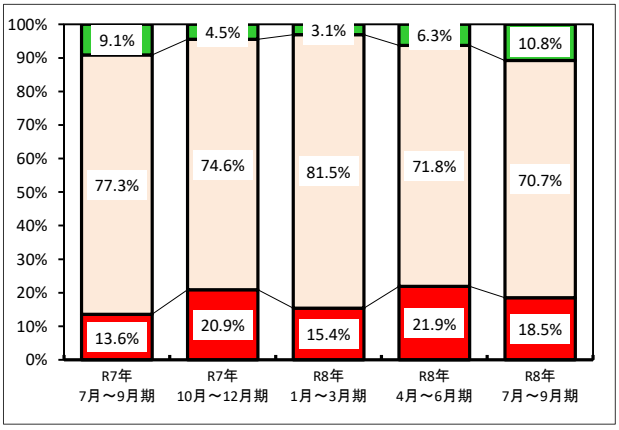
※『売上(収入)』の状況　前年同期比（D･I 値）



※『採 算』の状況　前年同期比（D･I 値）



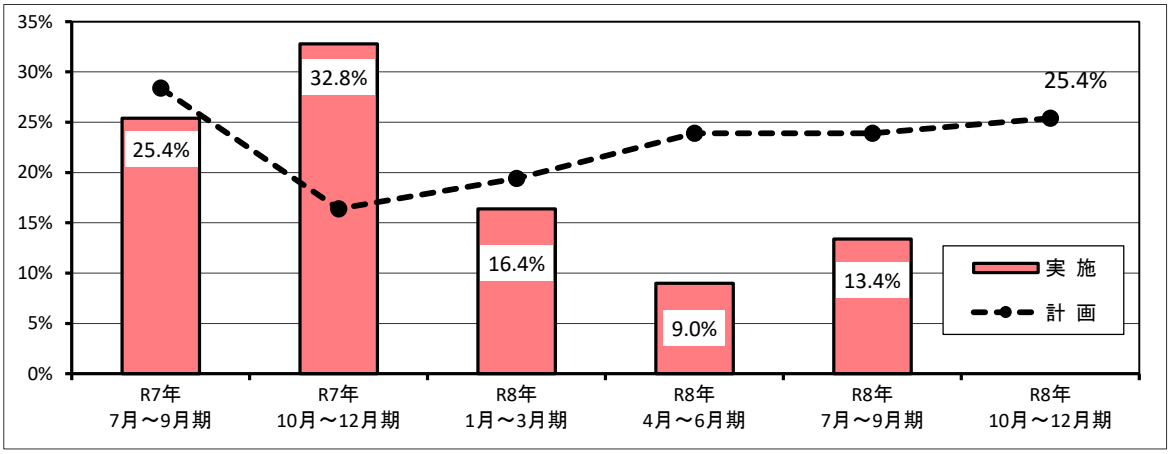
※『資金繰り』の状況　前年同期比（D･I 値）



② 設備投資の状況（当期中に行った設備投資の実施状況と来期の実施予定を集計）

設備投資の実施状況は13.4%（前期比4.4ポイントの増加）であった。

サービス業	R7年 7月～9月期	R7年 10月～12月期	R8年 1月～3月期	R8年 4月～6月期	R8年 7月～9月期	R8年 10月～12月期（計画）
土　　地	5.9%	0.0%	0.0%	16.7%	0.0%	5.9%
車両・運搬具	17.6%	27.3%	45.5%	50.0%	11.1%	17.6%
サービス設備	29.4%	31.8%	9.1%	16.7%	44.4%	29.4%
設備投資の実施	25.4%	32.8%	16.4%	9.0%	13.4%	25.4%

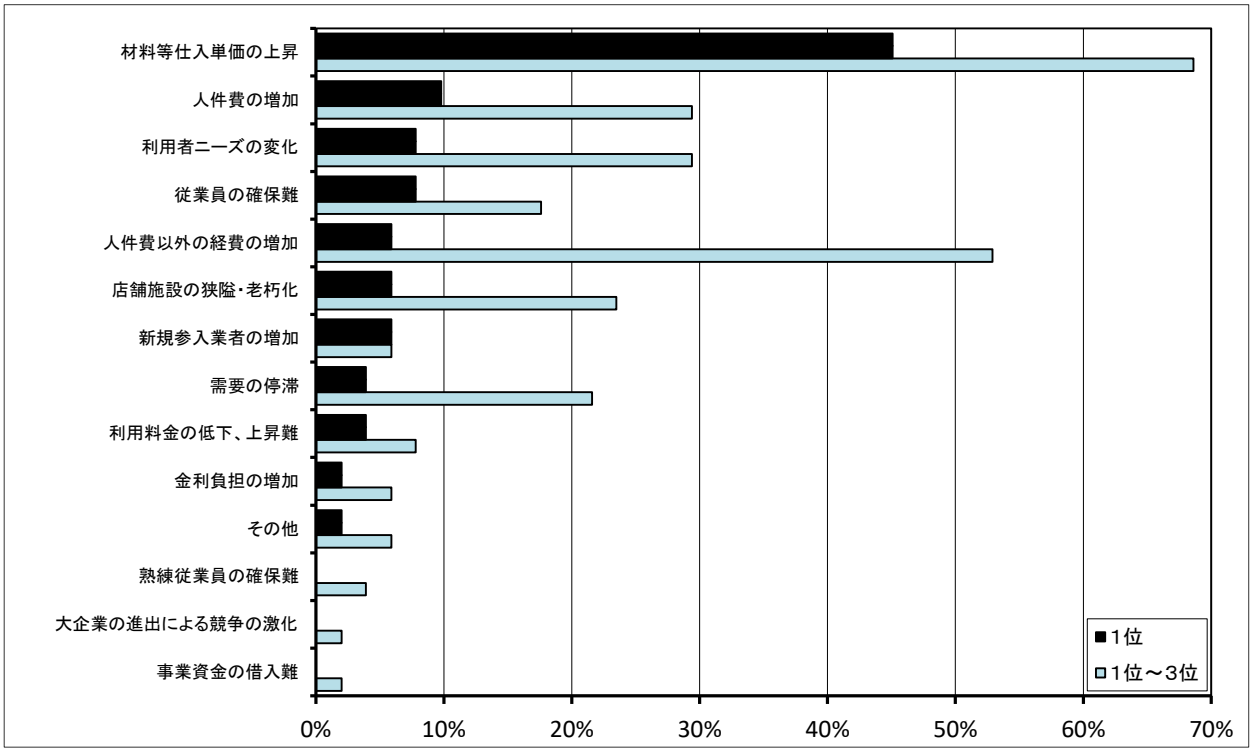


※ 計画については、調査実施時期を基準に翌期の予定を記入しているため、グラフに期の差が生じる。

③ 経営上の問題点

※グラフ中の項目から1位～3位まで挙げられた問題点を1位及び1位～3位毎に集計を行った。

「材料等仕入単価の上昇」「人件費の増加」「利用者ニーズの変化」「従業員の確保難」が上位となっ



京都府商工会連合会

〒600-8009 京都市下京区四条通室町東入函谷鉾町78番地

京都経済センター３F311号室

TEL：075-205-5418
FAX：075-343-0373

E-mail：office@kyoto-fsci.or.jp